

アオバセセリは昆虫少年時代を過ごした郷里の高知市五台山で、ヤマビワを食樹とするスミナガシと同じ場所で発生していて、スミナガシの幼虫探索の際に、葉っぱを巻いたなかにひそむ派手な色調の幼虫を観察したことがある。高知市ではアオバセセリの成虫は、ネギボウズやグミの白い花に吸蜜飛来する個体を目にできたが、次々と場所を変える吸蜜飛翔のために長い間まともな撮影記録が撮れずにいた。

May 8, 2016：兵庫県宍粟市

ミヤマカラスアゲハが観察できる兵庫県中部山岳地帯の溪谷を訪問。溪流沿いにミツバウツギの白い花が咲き誇るところに、頻度高く蜜を求めてやってくるミヤマカラスアゲハやカラスアゲハなどの大きなチョウに混じって、小さなチョウがすばしっこく飛び交う。それを目で追うと、時折後



翅端のオレンジ色がはっきりと認識でき、アオバセセリだとわかる。その吸蜜行動は忙しいのひとつことで、次から次へと場所を変え、しかもその転飛のスピードがのどかに舞うように飛ぶアゲハ類と違ってあまりに速い。そのアオバセセリの飛翔をビデオカメラで追いかけて、なんとか記録できた画像はいずれも似たような構図ばかり。



May 22, 2017：兵庫県宍粟市

2016年の5月に訪れた溪流沿いはミツバツツジがまだ開花していなく、アゲハ類もアオバセセリもまったく姿を見せない。仕方なく、さらに山奥のタニウツギが咲く溪谷へと足をのぼすと、オナガアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハが次々と蜜を求めてやってくる格好のポイントがあり、時折ミヤマチャバネセセリも現れるがタニウツギでの吸蜜時間はきわめて短い。そななか、ようやく姿をみせたアオバセセリだったが、このチョウはミヤマチャバネセセリよりもさらに滞在時間が短く、ビデオ撮影がかろうじて間に合うほどのタイミングで飛び去ってしまう。アオバセセリはやはりタニウツギよりは、ミツバウツギのような白い花での吸蜜がよく似合うチョウだ。

